

働きかけを強めていきたいと思っております。

●教育問題について

Q いじめ問題についてどう考えるか。

A 教育長 大津の事件に対しては、あのよ

うな加害生徒を生んだ背景に思いをはせるときに、あまりにもつたなくかつ無責任な学校、教育委員会の対応に驚きを禁じ得ません。同時にそれを他山の石として、恥ずかしくない教育委員会を目指さなければならぬと思います。

Q いじめに悩む子ども最後の砦になるのは家庭ではないか。

A 教育長 やはり家庭教育が基盤であると思えます。

Q 教育委員会の不要論についてどう思うか。

A 教育長 私は、なん

ら違和感を覚えません。教育委員会が必要であると確信をしております。しかるに、しっかりと機能する体制づくりをして、地方行政に精通

をして、自覚と責任を持つて、職務を遂行したいと考えています。

●教育長の反問

教育委員会不要論についてどう考えますか。また山武市教育委員会の評価はいかがが。

加藤議員の答弁

当然、教育委員会は必要だ。また、山武市教育委員会はよく機能している。

Q コミュニティ・スクールの現状と展望は。

A 教育長 コミュニティ・スクールの予定はありません。今後、検討される学校のあり方検討委員会等においても、手法の一つとして資料提供をして、みんなで考えていければと思います。

Q 子どもたちは、地域、家庭、学校が一体となつて育てなければならぬと思うがどうか。

A 教育長 今まで以上に開かれた学校、地域、保護者の意見を十分に反映できるように学校にするために、学校現場、教育委員会で努力します。

個人質問



小野崎正喜 議員

●市職員の対応について

Q 現在、市では来庁者への対応を、職員にどのように指導しているのか。

A 総務課長 市民サービスの上の観点から、これまでも研修や、所属長を通じて所属する職員に対する指導を行つてまいりました。親切、丁寧な対応は、地方公務員にとって基本であり、市民から信頼される市役所となるため、接遇の向上は重要なものでございます。そのため、名乗り、挨拶、笑顔などの接遇の基本を徹底することを目標に、現在も取り組んでおります。

Q 市長は、出張所にどの程度行っているのか。

A 市長 仕事始めのときに、訓示には参る

んですが、改めて御質問をいただくと、合併当時と比べて、行く回数が少ないと思っております。巡回というようなものを、意識的にはやっています。

Q 各出張所に予算を含む権限を少し移譲してはどうか。

A 市長 今のところ、その地域の窓口の業務と、諸証明書の発行、施設の管理もお願いしているということですが、みずから積極的にその地域の課題に取り組みすることはできないのかという内部的な仕事の内容についての検討は、これまでもやってきてはございます。けれども、現実的に積極的に取り組むというところまでは実現しなかったという経緯もありました。権限移譲ということも、なかなか難しいと思っております。

Q 市長の反問

そのような御質問をいただくということは、小野崎議員のほうでも、何か権限移譲ということに

ついて、お考えがあるんだろうと思いますがいかがでしょうか。

●小野崎議員の答弁

職員に使命感を与えることによつて、出張所がより活気が出てくるのではないかとこの観点から、権限を移譲してみてもどうかという質問をしました。

A 市長 今の予算編成は、枠予算という形でやらせていただいております。一定の予備費を持たせるといふ考え方はとらえていませんが、一考の余地があるので検討させていただきますかと思っております。

Q 交通安全対策について

現在、千葉県は、ワースト4位、その中で山武市に至つては、東上総17市町において、交通死亡事故、ワースト1位という状況だ。そこで、

A 市民部長 現在、市が交通危険箇所として考えている、または、指定している場所は、何か所くらいあるのか。

A 市民部長 現在、市で交通危険箇所とし

て指定している場所はございません。国県等が管理している幹線道路で、平成21年3月31日付、警察庁、国土交通省が指定した事故危険箇所は、2か所です。

Q 事故多発地点の交通安全対策は、今現在どのように図っているのか。

A 市民部長 交通事故多発箇所の共同現地診断を、年1回、県警本部、山武警察署、交通安全協会、道路管理者との合同で、対応策を講じております。危険箇所については、3年以内に何らかの方策を考えて、改善していくこととなります。

Q 所轄である山武警察署との交通安全対策上の連携は、どのように図っているのか。

A 市民部長 今年になりまして、担当者も積極的に警察署に向向くような形になっており、情報等も少しずつ詳しく入れていただいているという実態です。